

ICES 2011報告

黒川 利明
CSK Fellow (株)CSK
ICES Founder

ICESの課題の変貌

- 2006年 興味・関心を持った人/グループは存在していたが、情報交換・意見形成の場がなかった — 黒川のレポート(2005)
- 2008年 法人化, 恒久化, SDOとの関係, 教材
- 2010年 指導体制, 学生層の取り込み, 地域特性にあった取り組み
- EURAS, SSS (Society for Standards and Standardization)などとの関係

ICES overview

- 2006年2月 東京(一橋大学商学研究科丸の内産学連携センター) J. Hill, 栗原史郎, 黒川
- 2007年2月 Delft (デルフト工科大学)
- 2007年6月 Geneva ICES法人化について
- 2008年2月 Gaithersberg (NIST)
- 2009年3月 東京(KKRホテル)
- 2010年6月 Geneva, ISO/IEC/ITU-T WSC Academic Week
- 2011年6月 杭州(金溪山庄, ナラダ グランド ホテル 浙江) WSC Academic Day
- 2012年?月 Indonesia, ?

2011 Program

- <http://www.standards-education.org/workshops/ices-2011>
- <http://ices2011.cjlu.edu.cn/ICES%202011%20Agenda.doc>
- Theme: Research and Academic Teaching about Standardization
- 開催場所は、計量大学からホテルに変更
- Communcation problems

ICES 2006-2011 参加者数の推移

- 2006 -- 15
- 2007 -- 30
- 2008 -- 60;20
- 2009 -- 150(80);20
- 2010 -- 95;20
- 2011 -- 50;20

Academic Day

- 昨年のAcademic Weekの延長, 今後も継続の予定
- ITUは今年是不参加
- ANSIのCommittee on Educationが参加

2011決定事項

- John Hillの後任に, Erik Puskar (NIST)を選任.
- 次回, 2012年は, インドネシア. 次々回, 2013年は, CEN/CENELECのホストで, 欧州. 2014年は, NISTがホストで, 北米.
- Program committeeをきちんと選任して運営すべきだという動議が出された.

課題

- 教材が問題ではない — 教材は, 各所で作られている, ウェブ上で公開されるものも増えている
- 運営上の齟齬が目立つ — 個人に依存した組織の限界か
- 目標の再設定が必要 — 世代交代?
- 地域的活動(例えば, 12月のMalaysiaのシンポジウムなど)への貢献や関わり方

References

- 黒川, 国際標準を担う人材育成について, 科学技術動向, No.51, 2005年6月, p.10-p.19
- 一, 国際標準を担う人材育成, 標準化よもやま話, 情報処理, 47, Oct, p.1169(2006)
- 一, ICESの設立と現状, 2007年度画像電子学会第35回年次大会予稿集, 画像電子学会, 2007年6月23日~24日, pp.139-144
- 一, 技術標準化の戦略的側面 国際標準に資する人材の育成について, 技術・計画学会, 2007年10月
- 一, ICES 2009(標準化育成国際協力)ワークショップ報告, 標準化ジャーナルVol.39 No.6, 2009, 3-7
- 栗原史郎+竹内修, 21世紀標準学, 日本規格協会, 2001
- S. Kurihara, Foundations and Future Prospects of Standards Studies: Multidisciplinary Approach, J. of IT Sandards & Sandardization Research, 6(2), 1-20, July-December 2008, IGI Global